⑥　類縁物質　本品1.0g（0.95～1.04g）を水50mLに溶かし、試料溶液とする。この溶液１mLを全量ピペットを用いて量り、50mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて50mLとする。この溶液１mLを全量ピペットを用いて量り、水を加えて10mLとし、標準液とする。試料溶液及び標準液５μLずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に、水・無水エタノール・n-ブタノール・氷酢酸混液（150：150：100：１）を展開溶媒として約10cm展開した後、薄層板を風乾する。これにニンヒドリン・ブタノール試液を均等に噴霧し、105℃で５分間加熱するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは、１個以下であり、標準液から得たスポットより濃くない。

乾燥減量　0.20%以下（１g，105℃，２時間）

強熱残分　0.1%以下（１g）

定量法　本品を105℃で２時間乾燥し、その約0.2gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、水50mLを加えて溶かし、ホルマリン５mLを加え、0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液で滴定する（電位差滴定法）。同様の方法で空試験を行い補正する。

0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液１mL＝12.52mg$C_2H_7NO_3S$

(イ)　保存の方法の基準

密閉容器に保存すること。

イ　製剤

(ア)　成分規格

タウリン製造用原体の成分規格を準用する。

(イ)　保存の方法の基準

タウリン製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

(50)　炭酸亜鉛

ア　製造用原体

(ア)　成分規格

含量　本品は、塩基性炭酸亜鉛であり、定量するとき、亜鉛（Zn）57.0～60.0%を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、白色の粉末で臭いはない。

②　本品は、希塩酸又はアンモニア試液に溶け、水又はエタノールにほとんど溶けない。

確認試験

①　本品の希塩酸溶液（１→10）は、塩の定性反応を呈する。

②　本品は、炭酸塩の定性反応①を呈する。

純度試験

①　溶状　本品2.0g（1.95～2.04g）に水10mL及び希硫酸30mLを加えて溶かすとき、その溶液は、無色で、澄明でなければならない。

②　重金属　本品2.0g（1.95～2.04g）に水10mL及び塩酸（47→100）10mLを加え、加温しながら溶かし、放冷した後、アンモニア水（４→５）３mLを加える。さらに、塩酸（47→100）を加えて沈殿を溶かし、水を加えて40mLとし、試料溶液とする。この試料溶液15mLを量り、シアン化カリウム試液30mL及び水を加えて50mLとし、硫化ナトリウム試液0.5mLを加え、５分間放置するとき、この溶液の呈する色は、試料溶液５mLを量り、鉛標準液1.5mL、シアン化カリウム試液30mL及び水を加えて50mLとし、硫化ナトリウム試液0.5mLを加え、５分間放置するとき呈する色より濃くてはならない（30μg/g以下）。

③　ヒ素　本品0.40g（0.395～0.404g）を量り、希塩酸５mLを加えて溶かし、これを試料溶液として装置Bを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、臭化第二水銀紙の色は、標準色より濃くてはならない（５μg/g以下）。

乾燥減量　3.0%以下（１g，105℃，２時間）

定量法　本品約1.5gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水10mL及び塩酸（１→２）10mLを加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、水80mLを加え、水酸化ナトリウム溶液（１→50）を僅かに沈殿を生じるまで加え、次に、pH10.7のアンモニア・塩化アンモニウム緩衝液５mLを加えた後、0.05mol/Lエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　エリオクロムブラックT・塩化ナトリウム指示薬0.04g(0.035～0.044g)）。

0.05mol/Lエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液１mL＝3.269mgZn

(イ)　保存の方法の基準

密閉容器に保存すること。

イ　製剤

(ア)　成分規格

炭酸亜鉛製造用原体の成分規格を準用する。

(イ)　保存の方法の基準

炭酸亜鉛製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

(51)　炭酸コバルト

ア　製造用原体

(ア)　成分規格

含量　本品は、塩基性炭酸コバルトであり、定量するとき、コバルト（Co）47.0～52.0%を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、淡赤色又は暗紫色の粉末で臭いはない。

②　本品は、希塩酸に溶け、水又はエタノールにほとんど溶けない。

確認試験

①　本品1.0g（0.95～1.04g）に希塩酸10mLを加えて溶かし、α-ニトロソ-β-ナフトール試液１mLを加えるとき、赤褐色の沈殿を生じる。

②　本品は、炭酸塩の定性反応①を呈する。

純度試験

①　溶状　本品2.0g（1.95～2.04g）に水10mL及び希塩酸30mLを加えて溶かすとき、その溶液は、赤紫色で、澄明でなければならない。

②　鉛　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、硝酸（１→150）を加えて溶かし、20mLの全量フラスコに入れ、更に硝酸（１→150）を標線まで加えて20mLとする。これを試料溶液として鉛試験法（原子吸光光度法第１法）により鉛の試験を行うとき、その量は、30μg/g以下でなければならない。

③　ヒ素　本品0.40g（0.395～0.404g）を量り、希塩酸５mLを加えて溶かし、これを試料溶液として装置Bを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、臭化第二水銀紙の色は、標準色より濃くてはならない（５μg/g以下）。

乾燥減量　3.0%以下（１g，70℃，２時間）

定量法　本品約1.0gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水10mL及び塩酸（１→２）５mLを加えて溶かし、250mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて250mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、水100mLを加え、アンモニア試液でpHを8.0に合わせながら、0.01mol/Lエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　ムレキサイド指示薬0.20g（0.195～0.204g））。

0.01mol/Lエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液１mL＝0.5893mgCo

(イ)　保存の方法の基準

密閉容器に保存すること。

イ　製剤

(ア)　成分規格

炭酸コバルト製造用原体の成分規格を準用する。

(イ)　保存の方法の基準

炭酸コバルト製造用原体の保存の方法の基準を準用する。